

大石芳野 写真展

子ども 戦世のなかで

2009年2月28日(土)～4月23日(木) 会期中無休

大石芳野講演会 2009年3月29日(日)午後2時～(事前申込不要)



開館時間 午前9時30分～午後5時30分
〔入館は午後5時まで〕

入場料 一般1,000円(4枚セット券3,000円)、
大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

■後援：NHK津放送局、三重テレビ放送、中日新聞社、伊勢新聞社

財団法人 岡田文化財団 パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6
Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
MAPCODE 566359095
<http://www.paramitamuseum.com> E-mail:office@paramitamuseum.com



特別展示

〈不発弾〉と生きる
祈りを織る ラオス

戦争が終結した今なお不発弾の恐怖の中にあるラオス。ラオスの伝統的な布に織り込まれた人々の祈りを、最新写真集(発行/藤原書店)から紹介します。

Children in the Times of War

大石芳野 写真展

子ども

戦世のなかで

「戦世」— 戦乱期や戦後を生き延びるための闘いの日々を、沖縄では島言葉で「戦世」と呼びます。写真家大石芳野は、国家間や民族間の争い、恐怖政治、放射能汚染、災害、またそれらが残した負の遺産に苦しむ世の中は「戦世」だと言います。また、そのなかで一番の犠牲者は子どもたちだとも訴えます。

大石芳野は、日本大学芸術学部写真学科在学中に訪れたベトナムに衝撃を受け、大学を卒業後はフリーランサーとして、「戦世」に心身ともに傷つけられながらも遅く生きる人々に愛情と敬意を持ってカメラを向け続けています。一日でも早く苦しみから逃れて欲しいと祈り、写真家としてできることは何かと考え、そこに生きる人々の傷の深さ、闇の深さを写し撮ります。写真を通じて、写されたひとりひとりと静かに向かい合ってもらえたらと願いながら…。

本展覧会では、1980年のカンボジア以来、現在に至るまで各地で撮影した大石芳野の代表作を、写真集『子ども 戦世のなかで』の作品を中心に紹介します。

撮影地：ベトナム、カンボジア、ラオス、
アフガニスタン、チェルノブイリ、
スーダン

Yoshino Oishi

おおいし よしの
大石芳野：日本大学芸術学部写真学科卒業と同時にフリーランスとなりドキュメンタリー写真家としてアジア、アフリカ、ヨーロッパなどに単身で取材を行い、戦乱を生きる人々を撮り続ける。『無告の民・カンボジアの証言』『夜と霧は今』『カンボジア苦界転生』『活気あふれて 長い戦争のあと』『コンボ 破壊の果てに』『アフガニスタン 戦禍を生きぬく』『子ども 戦世のなかで』『不発弾と生きる～祈りを織るラオス』など著作多数。2001年『ベトナム 凜と』で土門拳賞を受賞。2006年日本放送協会放送文化賞受賞。2007年エイボン女性大賞受賞、紫綬褒章受章。



次回展覧会

棟方志功展

2009年4月25日(土)～
6月29日(月)

自らの版画作品を板画と名付けた棟方志功は、その生涯を文字通り木版画一筋にささげました。柳宗悦の民藝運動に加わり、独特の素朴な画風で知られますが、今回は民藝運動の最大の後援者であった大原美術館より全面的な協力をいただき、80点を超える棟方作品を一堂に展示して棟方芸術の魅力に迫ります。



財団法人 岡田文化財団

パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6
Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
http://www.paramitamuseum.com
E-mail:office@paramitamuseum.com MAPCODE 566359095

交通機関

- お車を利用される場合
東名阪四日市I.C.で降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。
無料駐車場あり(普通車100台、大型バス駐車場)
- 電車を利用される場合
近鉄「四日市駅」下車、
近鉄湯の山線に乗り換え
約25分「大羽根園」下車。
西へ300m。
全館バリアフリー、
車椅子常備

